

とちぎ市議会だより

第33号(9月定例会)
2017.11.20



特集

昨年度の決算状況は (決算審査)	2
自転車条例を制定 (議員提案条例)	14
各常任委員会の視察報告	15

「給付型奨学金」を創設	4
(9月定例会で決まったこと)	
15名の議員が市政を質す	6
(一般質問)	
その他の活動・お知らせ	13

P5に写真の説明

決算 審査

質 疑

認定第1号
28年度
一般会計決算

認定 賛成 31
反対 1

国内交流事業費

質 滝川市以外の交流は

答 東京都中央区において大江戸まつり盆踊り大会へ本市の特産物販売を出店、関東どまんなかサミットへの加入がある。災害時などを考えたととき、国内交流は重要であると考えるところから、近隣自治体も含めた交流について積極的な事業の推進を図っていききたい。

産業振興補助事業費

質 商工会議所や各商工会に対する補助金額の算定基準は

答 対象事業は明確にしているが、補助金額の具体的な算定基準はない。
質 合併前の金額がそのまま予算に計上されているが、会員数など明確な基準を定めては

答 商工会議所や商工会が実施している公共性の高い事業に対して補助を行っているが、一定の算定基準

を整理していく必要がある。会員数などの規模で一律に決めることは難しいかもしれないが、何らかの基準を検討していききたい。

学校給食費

質 給食費の口座引き落としは

答 給食費の他に教材費の支払いもあり、教職員の事務負担が増加することも想定されるが、保護者の利便性を考慮し、給食費等の支払い方法について、今後、各学校と協議していききたい。

消費生活センター運営費

質 相談件数と相談の多かった内容は

答 相談は983件あり、インターネット取引や通信販売に関する相談が最も多かった。

質 相談員は足りているのか

答 相談員は、相談を受けた後、事実確認や調査、情報収集などの業務に携わる時間も多し。現在、消費者教育に力を入れていることもあり、常時3名体制では十分とは言えない。

個人番号カード交付事業費

質 普及が進まない理由は

答 個人の意思により作成するものであり、カードを利用することによる利便性や付加価値が高まらないと普及は難しいと考えている。

人権同和対策補助金

質 新たに施行された部落差別の解消の推進に関する法律においては、団体への財政的支援は必要

答 インターネット上での部落差別の書き込み事例が見受けられ、未だに差別の問題は残っている。補助団体には、同和問題以外の人権問題に対しても取り組んでいただくことをお願いしており、今後も進めていききたい。

質 利用者数は

答 560名である。

配食サービス事業費

質 提供するメニューの栄養バランスは

答 事業者には、高齢者に合った食事を作ることや献立表の提出を依頼している。また、職員による抜き打ちの検食で内容の確認をしながら、事業者を集めた懇談会を開き、食事の質を上げる取り組みをしている。

討論(認定第1号)

反対

格差と貧困が広がり、行政には市民生活を守ることが求められているが、不十分である。第一点目は総合支所機能の縮小だ。合併前と比較して職員数は2割程度になり、市民サービスが低下した。第二点目は税金のムダ遣いである。マイナンバー制度導入や人権同和対策はやめるべきだ。第三点目は少子化対策である。保育士の処遇改善や学童保育対策は待ったなしだ。大型事業を見直し、税金のムダ遣いをやめ、暮らし・福祉優先へ、市政の転換を求めらる。

賛成

「栃木市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実質的なスタートとなった昨年度の決算を見ると、喫緊の課題である人口減少対策や地方創生に関する各種の施策が着実に実施されており、高く評価したいと思う。また、平成28年度の施政方針に、「これまでの5年間の歩みをより確かなものとしたうえで、次の10年間を目指して、ステップ・アップを図る」とあったが、まさに、そのような年度になったと思う。

市長は、翌年度の予算を決める3月定例会までに、前年度の決算について、議会の認定を受けなければなりません。
 皆さまの納めた税金が適正に使われたかどうか、4つの常任委員会がそれぞれ2日間、委員会を開催して審査しました。



**国際観光まちづくり
事業費**

153万円

外国人観光客を意識した観光資源の磨き上げとして、とちぎ江戸料理を推進しました



**吾一からくり時計
設置事業費**

2,109万円

新たな観光PRを行うため、栃木駅構内に吾一からくり時計を設置しました



**多機関協働包括的支援
体制構築事業費**

429万円

複合的な課題を抱える世帯等に対する包括的な相談支援体制を構築しました



**いりふね・そのべ保育園
統合整備事業費**

1億3,587万円

栃木地域の2園を統合し、「くらのまち保育園」を整備しました



**昨年度は
こんな事業に
お金を
使いました
(主なもの)**

防災ラジオ普及事業費

2,105万円

防災ラジオ（緊急告知ラジオ）について普及促進を図るため、購入時の助成制度を実施しました



**小学校洋式トイレ
改修事業費**

2億406万円

児童にとって清潔で利用しやすいトイレ環境を整備しました



**伝建地区拠点施設
整備事業費**

1億5,923万円

文化的向上に資するまちづくりの拠点施設を整備しました



**千塚町上川原産業団地
造成事業費**

5億5,573万円

企業立地の受け皿となる産業団地を造成しました
(区域面積 約37ha)



※1万円未満切り捨て

9月定例会で決まったこと

(主な議案)

特集ページで取り上げたもののほか、9月定例会で審査した主な議案等についてお知らせします。

各議案の詳細については、市議会ホームページの議案書をご覧ください。下記のQRコードをご利用になると、簡単にアクセスできます。



給付型奨学金を創設

議案第82号
篤志奨学金給付条例の制定
ほか

可決 全会一致

議案の概要

各方面から要望の多かった給付型の奨学金に併せて、従来の奨学金を拡充しました。

なお、県内ではトップクラスの充実した制度となっております。

【主な内容】

- ・ 給付型のとちぎ吾一奨学金を創設しました。
- ・ (対象者は市内高校から1名を想定し、10名以内)
- ・ 貸付型の奨学金の金額を増額し、対象者を拡大しました。

・ 奨学金の名称を変更しました。
(定住促進との整合性を図り、「未来応援奨学金」から「住まいる奨学金」に変更。一定の要件をクリアすれば返済免除)

質疑

質 基金の財源は

答 毎年170万円から180万円の寄附金があるので、今後はそれを篤志奨学金に積み立てていく。また、ふるさと応援寄附金に新たな項目を立てるとともに、経済界にもPRしていく。なるべく一般会計からの繰入金を少なくしていきたい。



奨学生の負担が軽くなれば

救助工作車を1台購入

議案第88号
財産の取得

可決 賛成 30 反対 2

議案の概要

栃木市消防署に配備する救助工作車1台を1億6556万4千円で購入するもの

質疑

質 今回取得する救助工作車Ⅲ型のグレードは

答 他の常備消防で使用されている車両と同程度のものである。

質 点検整備や修理の際の対応状況は

答 化学車やタンク車に資器材を乗せ換えて対応している。

質 他の車両に資器材を乗せ換えるには限界がある。救助工作車を2台配備し、運用していく考えは

答 今後、検討していきたい。

討論(議案第88号)

反対

工作車自体の購入について反対ではなく、入札契約に問題があり入札のやり直しを求めて反対する。反対の理由一点目は、落札率が97.33%と異常に高いこと。二点目は、入札における競争性、透明性への疑問である。予定価格1億5,750万円という高価な財産購入に、わずか2者の応札競争にしかならず、多くの応札可能業者(26者)が応札しない不透明さ等、執行部の取り組みに疑問があり賛成する事は出来ない。

賛成

今回の契約の決定にあたっては、広く入札の機会を与えるため、消防車両販売として登録のあるすべての事業者が応札可能となるよう、所在地による地域要件を無くしたうえで、入札を行っている。

落札率が97.33%であったことについては、事業者が十分な値引きを行った結果である。

以上のことから、議案第88号については、入札の方法、取得予定価格、取得相手のいずれも疑義なく、適正であると認められるので、本議案に賛成するものである。

本会議の表決前に、他の議員の賛同を得るために、討論が行われた議案名と発言した議員名は次のとおりです。(◇=賛成 ◆=反対)

- ・ 議案第88号 ◇福富善明議員 ◆大武真一議員 ・ 認定第1号 ◇福田裕司議員 ◆白石幹男議員
- ・ 認定第2号 ◇福田裕司議員 ◆白石幹男議員

議案等の審議結果

9月定例会では、議案17件、決算の認定9件、意見書1件が審査され、その内、全会一致は23件、賛否が分かれた議案等は4件でした。

賛否が分かれた議案等の各議員の賛否は以下のとおりです。

○=賛成、●=反対

議案番号	議案名	採決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
			大谷好一(誠心)	茂呂健市(市民クラブ)	青木一男(大樹)	針谷育造(市民クラブ)	坂東一敏(誠心)	広瀬昌子(無党派)	小久保かおる(公明党議員会)	古沢ちい子(公明党議員会)	松本喜一(無党派)	渡辺照明(誠心)	白石幹男(無党派)	関口孫一郎(黎明)	氏家晃(新生クラブ)	平池紘士(黎明)	針谷正夫(黎明)	大出三夫(黎明)	大阿久岩人(新生クラブ)	大川秀子(黎明)	長芳孝(黎明)	千葉正弘(新風創志会)	入野登志子(公明党議員会)	天谷浩明(誠心)	広瀬義明(大樹)	福富善明(大樹)	大武真一(無党派)	海老原恵子(無党派)	永田武志(黎明)	岡賢治(大樹)	小堀良江(新生クラブ)	梅澤米満(新風創志会)	中島克訓(無党派)	高岩義祐(新風創志会)	福田裕司(新風創志会)		
議案 88号	財産の取得(救助工作車の購入)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
決算の認定 1号	平成28年度一般会計	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
決算の認定 2号	平成28年度国民健康保険 特別会計	認定	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
意見書 1号	道路整備に係る補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表紙の写真

9月24日に開催された「寺尾米づくり体験教室」の1コマです。寺尾まちづくり協議会では、グリーンツーリズムの一環として、毎年春の田植え、秋の稲刈り教室を開いています。東京からのツアー客も参加するなど、都市部との交流が深まっており、参加者の中から移住される方や農業後継者が育ってくれればと願うところです。

(撮影者：白石幹男委員)



▶ 市民と議員をつなぐ、議会報告会を開催しました

10月20日から10月31日の間、議会報告会を開催しました。

今年度は新たな取り組みとして、市役所本庁舎1階市民スペースでの開催を実施いたしました。

その後も各地域で議会改革の取り組みや、昨年度報告会でいただいたご意見への対応などをご説明いたしました。

また、昨年度同様、各常任委員会でテーマを設定し、関係する市民や団体の方々と意見交換をさせていただきました。

詳しいことは、次回の議会だよりで報告させていただきますので、お楽しみに。



10/20 市民スペースでの様子



大阿久 岩人 議員
新生クラブ

奈良田川の冠水被害への対策を

奈良田川は、皆川西部地区の農業用水として広く利用されている。しかし、東北自動車道や改良された県道栃木佐野線からの道路排水も流れ込んでいるため、近年の集中豪雨時には、周辺農地や通学路が冠水する被害が生じている。冠水対策について、今後の整備の見通しを伺う。

【答弁】 高崎産業振興部長

費用対効果等を総合的に勘案し、地元の皆様と相談したい

対策としては2つの方法が考えられる。一つ目は、現在の奈良田川の断面を拡幅する方法であるが、この拡幅工事には、用地の確保等、長い年月と多額の費用を必要とする。

もう一つは、奈良田川に新たな

- 公共施設の適正配置
- 中心市街地内にある大規模遊休地
- 栃木市総合運動公園
- 皆川地区の安全安心な街づくり

ため池を整備するものである。稲刈り後から田植え前までの非かんがい期に表流水を溜めることが可能ならば、農業用として確保し、その水を田植えのために利用することができると。

また、台風などの影響で大雨が予想される場合には、事前のため池の水を抜き、調整池として利用することにより、湛水被害を防止することもできる。

いずれにしても、費用対効果や工事期間、その後の維持管理等を総合的に勘案し、地元の皆様と相談していきたい。



H27.9月関東・東北豪雨時
皆川中学校南側の冠水した道路

一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



針谷 正夫 議員
黎明

西方城址を国指定史跡に

「ふるさとの城郭群再発見事業」や西方城址の調査等については、県でも熱心な動きがあると聞いている。また、西方城址の文化的価値はこれまで蓄積された情報や昨年6月の一般質問の答弁にもあり、相当高いものと思われる。

西方城址は国指定史跡になる可能性はあるのか。可能性があるなら、指定を目指した体制を整えるべきではないか。

【答弁】 鵜飼生涯学習部長

国指定を目標とした調査体制を整える

西方城は、戦国時代に築かれたとされており、開発を免れた部分も多く残され、素人目にも大きな土塁や土橋の跡がはつきりわかるなど、大変貴重な城郭と位置付け

- 歴史文化の保存と活用
- 西方城の保存、活用
- 五月大型連休観光時期に美しい公園であるために

ている。

さらに隣接して二条城もあり、一括して戦国時代を語る遺構として、評価の高いものである。

文化財の指定については、今後の確かな調査や研究結果により判断されるので、国の指定を視野に入れた調査体制を、国や県にも関わっていただく形でしっかりと整え、国指定を目標として、事業の推進を図っていききたい。



西方城址のみどころを案内する西方城城郭図



針谷 育造 議員
市民クラブ

「栃木ルネッサンス」は産業団地の早期完成から

3カ所のインターチェンジを有しているのは県内で本市だけであり、佐野藤岡インター周辺の国道50号線南には、開発規制が少ない約400haの平地林がある。「県南には用地ストックが少なく、早期完成が待たれる」と新聞報道があったように、県南の中心都市として産業団地の造成が急がれる。地権者の受入態勢は良好で大きな期待を集めている。合併後7年が経過した今が「栃木ルネッサンス」の時である。事業の今後の見通しについて伺う。

答弁 高崎産業振興部長

関係地権者と合意形成を図りながら、開発整備の進め方を検討する

産業団地造成等の面的な整備を

- 憲法と平和行政
- 産業団地開発事業

具体的に進めるためには、開発に対する関係地権者皆様の同意が不可欠であるため、佐野藤岡インター周辺開発研究会の中で開発整備に関する理解を深めるとともに合意形成を図りながら、開発整備の進め方を検討していく。具体的な行動計画としては、開発に対する熟度が増した段階で開発区域の選定、事業方法や事業主体などの決定、区域内の地権者全員の同意書の取得、国県等の関係部局との各種法令の調整など、段階的に進め事業化を目指していく。当地区は栃木市南部地区の産業振興の拠点として、やり遂げなくてはならない事業であると考えられている。



分譲が始まった千塚町上川原産業団地

一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



古沢 ちい子 議員
公明党議員会

SNS等を活用した効果的なPRを

新しい人の流れの実績と評価についてどのように捉えているのか。また、「魅力ある街」については、実績を含め、ホームページやSNSでもっと効果的に発信すべきである。アニメゆかりの聖地巡礼スポット、話題の映画撮影地、ゴルフ場等の検索数、インスタ映えるスポットのアクセス数をリサーチし、市街観光パッケージを検討するなど、新たな対策について伺う。

答弁 鈴木市長

本市の魅力を体験できるメニューをPRしていきたい

観光客入込数を見ると、平成27年の約566万人に対し、平成28年度は約605万人へ増加。宿泊客数も平成27年の1万2700人に対し、

- 総合戦略から、人の流れはつくれているか
- 発達障がいに対する支援
- 豊かな自然を守り継承する取り組み

平成28年度は1万3100人に増加するなど、交流人口は着実に増加している。また、移住関連施策を利用した市外からの移住者が増加するなど、個々の事業でも成果をあげており、このような成果の積み上げが、住みたい田舎ベストランキングにおいても評価されたと考える。まずは市ホームページやSNSなどへのアクセス解析や来訪者などのニーズ分析を行い、効果的なPRについて検証したい。その上で、「スポーツ」や「食」「自然」「景観」などといった本市の魅力をパッケージで体験できる着地型観光のメニューを、それぞれのターゲットごとに効果的にPRすることを検討していく。



移住者増加に一役買っている蔵の街やどかりの家



廣瀬 義明 議員
大 樹

**公共施設再編に併せて多目的
球技場整備を進めてはどうか**

昨年 8 月に多目的球技場整備を
求める要望書が数多くの市民の署
名を添えて提出されている。昨年
6 月議会において同様の質問をさ
せていただいたが、市民要望の高
まりを見てとの答弁であった。市
民要望は十分であり、運動公園統
合再編の中で特色ある整備を図る
とすれば、多目的球技場の整備は
必要であると考ええる。今後の展望
を詳細に伺う。

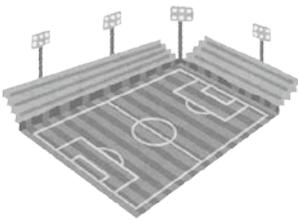
**ニーズに見合ったものを検討し、
積極的に整備を進めていく**

多目的球技場については、新た
に用地を取得しての整備ではな
く、全庁的に行っている公共施設
適正配置及び施設の再編を進めて

- 常備消防庁舎整備
- 多目的球技場整備
- 公民連携の推進

いくなかで、既存の施設を転用し
た整備改修を検討していきたいと
考えている。

整備にあたっては、施設の規模
や、利便性を高めるための夜間照
明や観客席の設置の有無、また、
芝を維持するため、他の競技やイ
ベントなどの目的で使用する場合
のルールづくりなどが課題として
挙げられるが、まずは、現状のニ
ーズに見合ったものを検討してい
くことで、実現の可能性は高くなる
と考えており、積極的に整備を進
めていきたいと考えている。い
ずれにしても、具体的には施設を利
用する競技団体等と対話の機会を
持ちながら検討を進めていきたい。



一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



小久保かおる 議員
公明党議員会

**ひきこもりサポーターの派遣による
きめ細かな支援が出来ないか**

平成 28 年の内閣府の調査報告に
よると、15 歳から 39 歳までのひき
こもり当事者は全国で約 77 万人、
栃木県内では、約 1 万 4 千人いる
と推計されている。

県が養成し、市町が派遣を行う
「ひきこもりサポーター」の派遣
事業を実施することで、本人や家
族に対するきめ細かで継続的な支
援を行うことが出来るかと考える。
事業への取り組みの考えについ
て伺う。

**ひきこもりサポーター派遣
事業の来年度開始を目指す**

栃木県子ども若者・ひきこもり
総合相談センター「ポラリスとち
ぎ」では、ひきこもりサポーター

- 肝炎ウイルス陽性者への細やか
な対応
- 引きこもり対策
- 高齢者の施設入所に伴う家財整理

の養成研修を実施し、研修修了者
を登録している。

市では、登録されたサポーター
を対象者宅へ派遣し、外出の同行
や支援を行うことになるが、今の
ところ本市在住の研修終了者はい
ない。

そのため、今年度は障がい福祉
課の職員が研修を受講し、さらに
相談支援専門員や民間ボランティア
である身体・知的障がい者相談
員等に研修の受講を呼びかけ、ひ
きこもりサポーター養成から始
め、来年度からひきこもりサポー
ター派遣事業の開始を目指してい
きたい。





大谷 好一 議員
誠心

市民ニーズの変化に対応し、総合支所の施設の最適化を

少子高齢化に伴い、扶助費の増加が見込まれる中、本市における財政支出削減に向けた取り組みは必須である。

各総合支所を公民館等の市民利用施設との複合化を早期に行うことにより、災害時における防災拠点機能の充実に繋がり、市民の安全・安心な生活を確保することが出来るものと考えているが、執行部の見解を伺う。

答弁 小林財務部長

複合化する施設の選定など早期の施設整備に努める

総合支所の複合化については、本年3月に策定した「公共施設適正配置第1期計画」において、地域施設の再編モデルに掲げている。

●公共施設(各総合支所)の複合化

岩舟地域を除き、各総合支所と地域公民館は老朽化が進行しており、建て替えが必要となることや同様に老朽化が進行している他の用途の施設も存在している。

そこで、各施設を集約・複合化することにより効率性を高め、必要な行政サービス機能を残しながら、防災拠点施設機能の向上を図るとともに、地域コミュニティの拠点を形成する施設を整備するものである。

現在は、庁内に関係課で構成される専門部会を立ち上げ、事業化に向け検討を行っている。

今後は、地域や利用者のご意見を伺い、理解を得ながら、複合化する施設の選定など、早期の施設整備に努めていく。



一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



大川 秀子 議員
黎明

メディカルセンターしもつがに産科の開設を

妊娠した女性が安心して出産するには産科の確保が必要となる。

これまでメディカルセンターに産科の開設を要望してきたが、市内に二か所あった産科が、本年7月に一か所になってしまったことで、さらにその必要性が高まっている。

メディカルセンターに対して産科の開設を強く要望していただきたいと考えるが、市としての考えを伺う。

答弁 藤田保健福祉部長

産科の開設を強く要望し、地元大学病院へ医師の派遣要請を行う

メディカルセンターしもつがの産科開設については、これまでも要望をいただいております。メディカルセンターとしても産科医が確保でき

- 栃木市の少子化対策
- シビックコア地区整備計画
- 栃木インターチェンジ周辺開発

ば、開設する予定となっている。しかしながら、産科医は勤務条件が厳しいことから、全国的に絶対数が不足しており、派遣元となる地元大学病院においても産科医不足により、医師の派遣は難しい状況にある。

地域で安心して子どもを産み、育てることのできる医療環境の確保や医療体制の充実を図ることは、若者の定住促進や少子化対策にも大きな役割を果たすことになるので、メディカルセンターには、産科の開設を強く要望するとともに、連携を図りながら、地元大学病院への派遣要請を行っていく。



産科の開設が待たれるとちぎメディカルセンター



入野登志子 議員
公明党議員会

メディカルセンターしもつがの二次救急(※)の取り組みは

救急車を呼んだ時に、搬送先が決まらず、30分も現場にいて、なかなか出発しなかったという声を聞いたことがある。

メディカルセンター整備前には、二次救急の一元化を図り、機能強化を進めるとの説明を受けている。

救急時においては、まずはメディカルセンターしもつがへ搬送されるべきと考えるが、救急体制の取り組み状況について伺う。

答弁 藤田保健福祉部長

救急医療体制の充実に必要な支援を行っていく

栃木市と壬生町で形成する栃木医療圏では、二次救急をメディカルセンターしもつがと獨協医科大学

- 栃木市総合計画
- とちぎメディカルセンター
- 住居表示

学病院において、休日夜間の対応をしている。また、平日の昼間における急病患者は、しもつがに優先的に搬送しているが、受入体制や患者の状態により、地域の病院や診療所へ搬送している。

しもつがの救急医療体制は、平日の昼間は救急部の医師が1〜2名で対応し、夜間は当直医師が内科・外科とも1名という体制のため、救急車が重なったり、対応できず医師が不在だったりすると、受入が困難な場合もある。

今後ともメディカルセンターと連携を図りながら、救急医療体制の充実に必要な支援を行っていく。

用語解説

(※)二次救急
入院を伴うような症状に対して行う救急医療のこと。これに対して日帰りで対応できるような症状に対して行う救急医療のことを一次救急と呼びます。

一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



大武 真一 議員
無党派

メディカルセンターの医師、看護師不足に対する対応策は

メディカルセンターの決算状況はホームページで公開され、約25億円の赤字決算となった。

すでに多くの税金を投入しており、これ以上の負担はすべきでない。赤字となった要因としては、常勤医師や看護師等の不足も大きいと思われるが、医師や看護師の不足に対する対応策について伺う。

答弁 赤羽根副市長

大学病院に、引き続き医師の派遣要請を行っていく

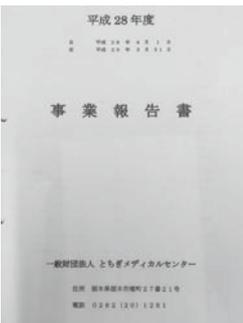
常勤医師の確保については、経営体制の強化を図るため、地元大学病院の方を副理事や業務執行理事として招へいし、経営に参画していただいております。医師の派遣についても強力な支援をいただいで

- 栃木市内の河川等の氾濫対策
- とちぎメディカルセンターの状況
- 市予算・決算書の記述
- 家庭ごみ収集業務の競争入札

また、法人パンフレットの作成やホームページのリニューアル、シンポジウムの開催や都市医師会との連携など、新病院の魅力をPRすることにより、勤務医の確保に努めている。

市としても、メディカルセンターとの連携を図り、引き続き大学病院に医師の派遣要請を行っていく。

また、看護師の確保については、業務の多忙化などにより、人員確保が難しい状況にあるが、看護学校生を対象とした奨学金制度の実施や看護専門学校から実習受入などさらなる看護師の確保に努めていくことである。



とちぎメディカルセンター事業報告書



白石 幹男 議員
無会派

一般会計から繰り入れし、
国保税の引き下げを

平成26・27・28年度と、一般会計からの繰入れ(法定外繰入)を行ってきたが、平成29年度は、来年度からの国保運営の都道府県単位化を見据えて、法定外繰入しないことを基本としたために、大幅な保険税の引き上げとなった。今年度の納付書が届き、大幅引き上げに、市民から悲鳴が上がっている。国保税は市民負担の限界を超えている。一般会計から繰り入れし、国保税の引き下げこそ必要だ。見解を伺う。

答弁 若菜生活環境部長

基本的には一般会計からの赤字繰入は行わないものと考えている

一般会計からの法定外繰入は、国保以外の市民に負担を求めるものであり、国保以外の市民にとつ



ては、保険料を二重に負担することになるので、慎むべきものと考えている。
国においては、著しく負担が増えることとなる市町村で、激変緩和措置による負担軽減を行ってもなお負担増となる場合においては、繰り入れもやむを得ないものと考えている。
本市においては、試算による納付金の算定結果から判断すると、平成30年度は著しい負担増に該当するとは見込まれないことから、基本的には一般会計からの赤字繰入は行わないものと考えている。

- 国民健康保険
- 寺尾地区の活性化対策

一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



松本 喜一 議員
無会派

本市で進めている
コンパクトシティについて

少子高齢化が進む状況の中、本市ではコンパクトシティ化が進められている。本市におけるコンパクトシティについては、具体的な計画内容及び今後の見通しについて伺う。
また、市の方針について市民へ周知すべきと考えるが、市の考え方について伺う。

答弁 渡邊都市整備部長

内容や周知方法等について
検討していく

本市の都市計画マスタープランの中で、鉄道駅周辺を拠点として、行政や商業等の都市機能を集約し、これらの拠点を鉄道やコミュニティバスなどの公共交通でつなぐことにより、各地域間の連携強化と、誰もが安心して暮らし

- コンパクトシティ
- 道路整備
- 教育行政

せるコンパクトなまちづくりを目指すとしている。
人口減少や中心市街地の空洞化は、本市が抱える喫緊の課題であり、ハード・ソフト両面の施策を実施することにより、既存の市街化区域内、特に、基盤整備の検討が進んでいない鉄道駅周辺地域において、人口や都市機能を集約させ、全ての市民生活が栃木市内で効果的に充足するコンパクトシティを推進していきたいと考えている。

また、市民への周知については、コンパクトシティに対する認知度が低い状況が想定されるので、市民の理解が促進されるよう、内容や周知方法等について検討していく。





小堀 良江 議員
新生クラブ

より住みやすい街を目指して!!

東洋経済新報社配信の住みよさランキングにおいて、本市は、814市中、489位。県内では、14市中12位でした。このランキングは、それぞれの市が持つ都市力を5つの観点に分類し、15指標についてランキングしたものです。より住みやすい街を追及するために、この住みよさランキング結果を分析し、街づくりの参考にしてはどうかと考えるが、住みよさランキングにおいての認識と分析について伺う。

答弁 茅原総合政策部長

見えてきた本市の課題について、今後対応していく

このランキングについては、安心度及び利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度の5つの観点にお

- 住みよさランキング
- 学童保育
- 広聴事業

いて、15の統計指標から偏差値を算出し、観点毎の部門評価及び総合評価を、都市力としてランキングしているものである。

ランキング算出に使用されている15の指標は、どれも、行政運営、まちづくりを進めていく上では重要な、そして、常に意識しなければならない指標であり、ランキングは各都市の特徴の一つを示す貴重な指標である。

その都市の実態を正確に評価していないものもあるが、ランキングの結果は真摯に受けとめ、見えてきた本市の課題について、今後対応していく必要があると考えている。



一般質問の詳しい内容はこちらからアクセス →



千葉 正弘 議員
新風創志会

「吾一からくり時計」の存在感をどう高めていくか

「吾一からくり時計」の効果をどのように見ているか。また、「吾一からくり時計」の存在感をどう高めていくのかについて伺うが、改善についての提言もさせて頂く。①設置場所の再考を。②作動時の合図が必要では。③「吾一からくり時計」からの音声聞き取りやすく改善を。④作動時間および頻度を増やす。等々について、改善点を提言させて頂く。知恵と工夫の改善で「吾一からくり時計」の存在感を更に高めて頂きたい。

答弁 高崎産業振興部長

案内看板の設置とあわせ、実施していく

指摘のとおり、作動場所や時間が分かりにくい、音声についても

- 蔵の街とちぎの存続と大通りの街並み保存の考え方は「吾一からくり時計」の更なる活用に向けて

駅構内の構造上、音が反響してしまい、一部に聞き取りにくい状況にあることも認識している。

これまでの対応としては、要望に依る形で、当初設定した平日2時間おきの作動を、平日・休日ともに作動を1時間おきに変更した他、音声についても、スピーカーの位置や音量の調整などの対応をしてきた。

議員提言の作動時の合図や音声の改善についても、案内看板の設置とあわせ、実施してまいります。



栃木駅構内にある観光案内所の上に設置されている吾一からくり時計



高岩 義祐 議員
新風創志会

3期目の市長選挙に向けた、
鈴木市長の決意を伺う

鈴木市長は合併以来、数多くの課題、難題をクリアして、安定した行政基盤を作り上げてきた。

これまでの8年間を総合的に判断すると、大変良好な状況にあり、その行政運営手腕は市内外から高い評価を受けている。

来年4月には3期目に向けた市長選挙が控えているが、選挙に向けた鈴木市長の決意を伺う。

答弁 鈴木市長

引き続き栃木市政を担ってまいりたい

これまでの2期8年を家づくりに例えると、1期目で土台作りのうち、地ならしが終了し、2期目においては、基礎打ちが終了した。このような経過を踏まえ、本市

●3期目の市長選挙に向けた鈴木市長の考え方

の今後を展望すると、来年度からは本市総合計画の後期基本計画がスタートする。また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、31年度の最終年度に向けた仕上げの時期に入る。さらに、リノベーション事業、シビックコア地区整備計画の実施、スマートインターチェンジの完成など、すでに着手している事業については何としても完成させなければならない。そういう意味では、来年度以降はまさに栃木市の家づくりの段階である。

合併後7年が経過したとはいえ、いまだに地域や地区のことだけにこだわってはいけなことを、十分に理解いただけない。

こうしたことを乗り越えていくためには安定した市政運営が求められており、引き続き栃木市政を担ってまいりたい。

▶ 未来を担う高校生達による議会が開催されました

高校生の自由な発想をまちづくりに活かすとともに、選挙権年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、高校生が主体的に行政課題に関わる機会を創出し、主権者として社会に参画していく意欲の向上に寄与することを目的として、8月4日に市議会議場にて第2回栃木市高校生議会が開催されました。

本市議会議員も多数、傍聴に駆けつけ、本番さながらの様子に聞き入っていました。

学校名	テーマ
栃木工業高校	栃木市の政治について
栃木高校	栃木市内の交通について
栃木商業高校	学習する場所の提供について
栃木翔南高校	観光地としての栃木市について
栃木農業高校	若い世代を栃木市に誘致するには
栃木女子高校	栃木駅周辺の喫煙について
学悠館高校	安心・安全に生活できる環境づくりについて
栃木特別支援学校	川沿いの道の整備について
國學院栃木高校	定住促進策について



執行部に質問・提案をする高校生議員

☆感想☆ (いただいたアンケートの中から)

- 私たち高校生の意見やアイデアもしっかり市に届き、実現されるものまであり、感激しました。普段から思っていることに対し、ひとつひとつ丁寧にお答えいただき嬉しかったです。また、政治に参加する意欲も向上しました。
- 自分が発表するときは緊張したけれど、自分が質問したこと以外にも知らないことを知ることができて、自分の知識を広げられることができたから良かったです。また、自分に自信がもてるようになりました。

▶ 議員提案による【自転車条例】を可決しました

市議会では自転車を安全に利用できる環境づくりを推進するために「栃木市自転車の安全な利用に関する条例」を策定しました。

日頃、何気なく乗っている自転車ですが、色々なルールがあります。皆さんも改めて自転車のルールについて考えてみませんか？

自転車利用者だけではなく、事業を営む方々、小売業者等の方々、地域の方々などが協力し合ってこそ、安全に利用できる環境ができてくると思います。栃木市が一体となって進んでいけるよう、本市議会も努力していきます。みんなで安全に楽しく自転車を利用しましょう！！

詳しくは市議会のHPを
ご確認ください



例えば、



「かさ」をさしながら走らないようにしましょう！

雨が降っているときには、傘をさして自転車に乗りたくなくなってしまいますが、危険なのでやめましょう。安定した運転ができなくなってしまいます。

▶ 健康で長生きするために「あったかとちぎ健康都市」を宣言

市議会でも「健康都市」を宣言する必要性について提言していましたが、平成26年に健康増進計画が策定され、「健康寿命の延伸」を目標に掲げて、各種健康づくり施策を進めながら市民・関係機関・行政が一体となって宣言文の準備がされてきました。

宣言文は市民が心身ともに健やかで、心豊かに

生活が送れることを願って、健康づくりの基本的な考え方がわかりやすく示されています。

なお、来年1月20日には大平文化会館で「あったかとちぎ健康都市宣言記念式典」及び女優の倍賞千恵子さんを招いて「がん検診啓発セミナー」が実施される予定です。

あったかとちぎ健康都市宣言

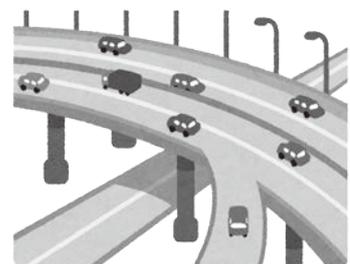
- 1 地元の食材を活かして、バランスのとれた食生活を実践します。
- 2 体操やウォーキングなど自分にあった運動を続けます。
- 3 人が集まる場所では禁煙し、受動喫煙防止に努めます。
- 4 心と心のふれあいを大切にし、こころの健康を保ちます。
- 5 ていねいな歯みがきと歯科健診で、歯と口の健康づくりに努めます。
- 6 毎年健康診査を受けて、健康管理に努めます。



▶ 道路は市民生活にとって重要な社会基盤です（意見書採択）

現在、道路事業においては「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」（以下「道路財特法」という）の規定により、交付金事業の補助率等が55%にかさ上げされていますが、この措置は平成29年度までの時限措置です。もし継続されない場合は道路整備の停滞を招きかねません。

そのため市議会では、道路財特法の補助率等のかさ上げ措置について来年度以降も継続するよう国等へ意見書を提出しました。



▶ 今後の活動に生かすため、先進地を視察しました

総務常任委員会

8月8日 愛知県稲沢市

「公共施設の再編」

8月9日 愛知県春日井市

「街づくり支援制度」



市の公共施設は、昭和50年代前後に整備が集中し、経年による施設の老朽化や性能・機能の低下が進んでいます。今後、本格的な大規模改修や建替えの時期を迎え、それには膨大な財政負担が見込まれます。次の世代に負担を先送りすることなく、財政の健全性をいかに維持していくかがこれからの大きな課題となります。

民生常任委員会

8月23日 山形県天童市

「子育て未来館げんキッズ」

8月24日 山形県上山市

「上山型温泉クアオルト事業」



子育て未来館げんキッズは、子どもの遊び場以外にも、一時預かり事業や親子で参加できる講座なども行っている子育て支援拠点施設です。視察時は夏休み中ということもあり、大型の滑り台やボールプールで遊ぶ元気な子ども達の声であふれていました。本市での屋内型の遊び場整備に向け、大変参考となる施設でした。

産業教育常任委員会

8月8日 大阪府交野市

「プログラミング教育の推進」

8月9日 大阪府守口市

「テレワークオフィス」



2人1組になり、実際に交野市で教材として使用しているロボットを組み立てて、ビジュアルアイコンを使ったソフトウェアでプログラミングを実施しました。教育現場での反応を伺ったところ、とても好評で、2学期以降も引き続きお願いしたいとの回答が多かったとのことでした。

建設常任委員会

8月7日 愛知県豊川市

「赤塚山公園」

8月8日 愛知県岡崎市

「下水道事業の公営企業会計移行」



赤塚山公園は市制50周年を記念して建設された総合公園で、市内外から多くの人が集まっています。写真は淡水魚を展示している「ぎよぎよランド」という人気施設です。本市でもつがの里の総合公園化を進めていますので、皆さまが楽しめる公園となるよう検討していきます。

MONITOR INTERVIEW
6

モニターインタビュー No.6

各委員が、紙面を充実させるためのアンケートにご協力をいただいている「議会広報紙モニター」にインタビューするコーナーです（今回のインタビュアー：針谷育造委員）



議会広報紙モニター
堀江 一男さん

議会広報紙モニターになったの感想は

A：モニターになる前は毎回拾い読みでしたが、今は全部読むようにしています。特に一般質問は、本市の現状や各議員の市政に対する考え方、市の将来をどのようにしたいのかなどが分かって参考になります。

議会への要望は

A：毎回、意見や要望を出させていただいていますが、それらがどのように受け止められ、どのように対応されようとしているのか。またはどのように対応されたのか、全くわかりません。くしくも議会だより第32号に「議会だよりは私たち議員と市民の皆様をつなぐ貴重な媒体です。」とありました。一方通行でなく、文字通り、このようになるように努めてほしいと思います。

12月定例会の予定（変更になる場合があります）

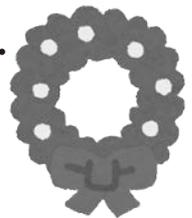
日	月	火	水	木	金	土	
11/26	27	28	29	30	12/1	2	
				新聞折込	本会議 議案等提案		
3	4	5	6	7	8	9	
		本会議 『一般質問』					
10	11	12	13	14	15	16	
	委員会 (総務) (民生) (産業教育) (建設)						
17	18	19	20	21	22	23	
			本会議 議案等採決				

傍聴にお越しく下さい

日程と一般質問の内容は、確定次第、ホームページ等でお知らせするほか、11月30日（木）に新聞折り込みを予定しています。

ぜひ傍聴にお越しく下さい！

9月定例会の傍聴者は・・・
113人でした。



広報紙発行特別委員会

9月定例会では、昨年度の決算について、予算がどのように使われたのか。また、事業の成果がいかに上がったのかなどの審査を各委員会で行い、本会議で認定いたしました。

議会が決算審査を通して問題点を指摘し、改善していくことは、適切な予算編成をするうえで、とても大切な役割を担っております。今後も市民の皆様の負託に適切に応えられるよう、皆様の声に耳を傾けながら、分かりやすい紙面づくりに、一生懸命取り組んでまいります。

また、議会報告会などいただいたご意見を参考に、執行部に提言等を行ってまいりたいと思っております。（小久保かおる 記）

委員 委員長 青木 一男
副委員長 氏家 晃
委員 針谷 育造
委員 坂東 一敏
委員 小久保 かおる
委員 白石 幹夫
委員 針谷 正弘
委員 千針 正夫
委員 中島 優次
委員 時田 宣久
委員 島田 宣久

お詫びと訂正 8月18日発行の第32号（P12）の長議員の質問要旨は「2022年『いちご一会とちぎ国体』」の誤りです。お詫びして訂正いたします。